

「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」 (第 1 版 3 刷用) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。

最新の正誤表については、(一財)日本建築センターホームページ (<http://www.bcj.or.jp/>) の書籍販売ページでご確認下さい。

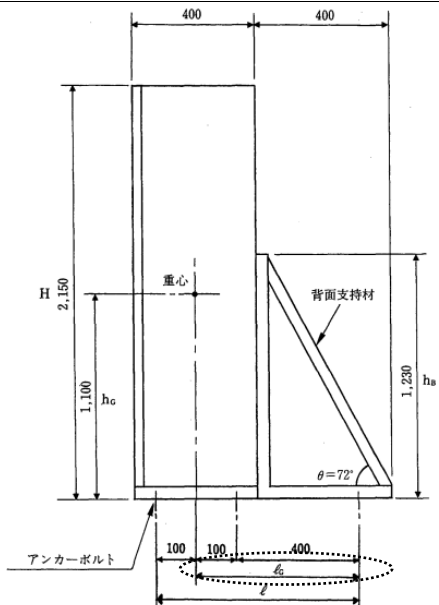
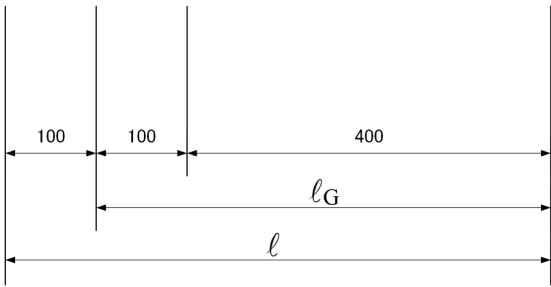
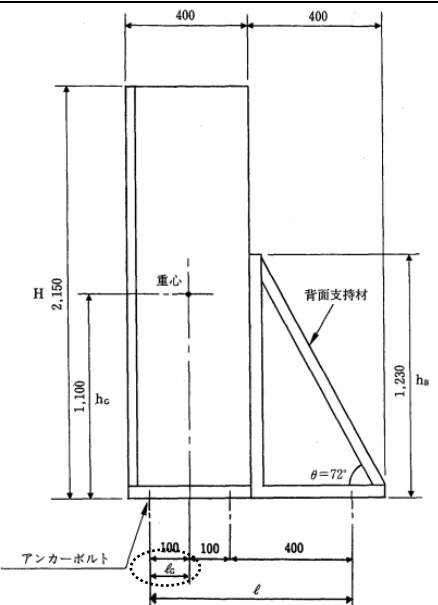
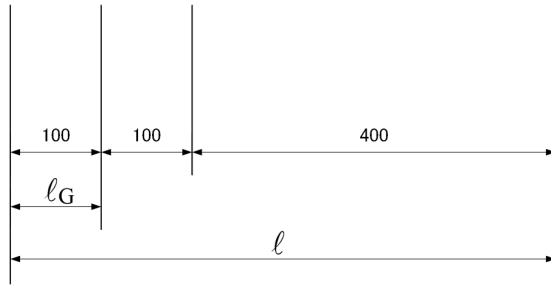
H28/3/2

該当箇所		誤	正
頁	行		
24	③頂部支持材のアンカーボルトに作用する力	X 方向 引抜き力 $R_b = N$ (3.3-3d)	X 方向 引抜き力 $R_b = \frac{N}{n_0}$ (3.3-3d)
44	6 行目	…せん断が作用していることに留意する。	…せん断が作用していることに留意する。 <u>ただし、柱下端が連結されている場合には両側柱を考慮できる。</u>
71	下から 10 行目	…抑制するよう耐震支持を行う。	…抑制するよう、 <u>指針表 6.2-1 に示す耐震支持を行う。</u>
	下から 8 行目	…抑制する耐震支持を行う。	…抑制する耐震支持を行う。 <u>ただし、電気配線・ケーブルラックの管軸方向については、指針表 6.2-1 による。</u>
177	15 行目	$F_H' = \frac{F_H}{n_2} = \frac{67.2}{4} = 16.8\text{kN}$	$F_H' = n \cdot Q = \frac{F_H}{n_3} = \frac{67.2}{4} = 16.8\text{kN}$ <u>n_3 は、柱下端を連結しているので両側端を考慮して (2×2=4) としている。</u>
181	4 行目	$F_H' = \frac{F_H}{6} = \frac{369}{6} = 61.5\text{kN}$	$F_H' = n \cdot Q = \frac{F_H}{n_3} = \frac{369}{4} = 92.3\text{kN}$ <u>n_3 は、柱下端を連結しているので両側端を考慮して (2×2=4) としている。</u>
	9 行目	② 解図 4.2-3 より	② <u>各柱にアンカーボルト 4 本として $R_b=49.3\text{kN}$、$Q=23.1\text{kN}$、解図 4.2-3 より</u>
	10 行目	径は 24 本— <u>M20</u>	径は 24 本— <u>M22</u>
210	18 行目	$M_v' = P_v \cdot \underline{\alpha} = \dots$	$M_v' = P_v \cdot \underline{a} = \dots$

「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
 (第 1 版 1 刷・2 刷・3 刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。
 最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

H31/4/26

該当箇所		誤	正
頁	行など		
199	下から 2 行目	d:ボルト孔径 (<u>M16</u>1.7cm)	d:ボルト孔径 (<u>M8</u>0.9cm)
215	計算例 25 (1)設備機器緒元の図	 <p>【寸法部分の拡大】</p> 	 <p>【寸法部分の拡大】</p> 

該当箇所		誤	正
頁	行など		
216	上から 9~10 行目	アンカーボルトの距離 $l_{G1}=10\text{cm}$ 盤と背面支持材とのボルトスパン $l_{G2}=40\text{cm}$	アンカーボルトの距離 $l_G=10\text{cm}$
216	指針式3.2-1a の2行目	$= \frac{6.00 \times 110 - (3.00 - 3.00) \times 50}{60 \times 2} = 5.50\text{kN}$	$= \frac{6.00 \times 110 - (3.00 - 3.00) \times 10}{60 \times 2} = 5.50\text{kN}$

「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
 (第 1 版 1 刷・2 刷・3 刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。

最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

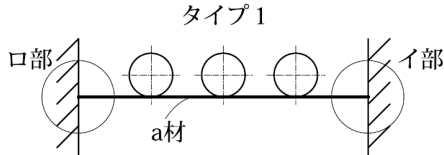
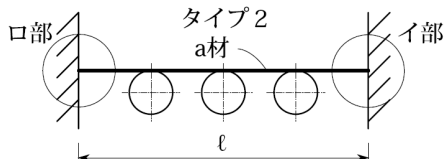
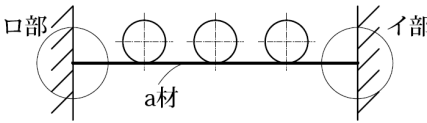
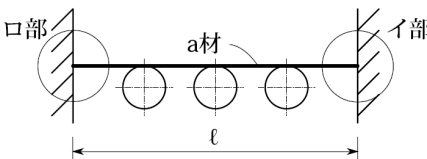
R1/7/24

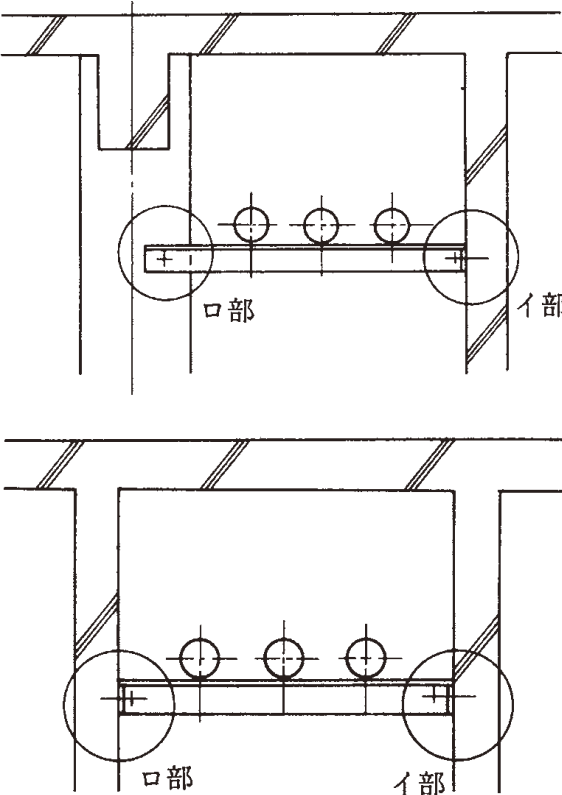
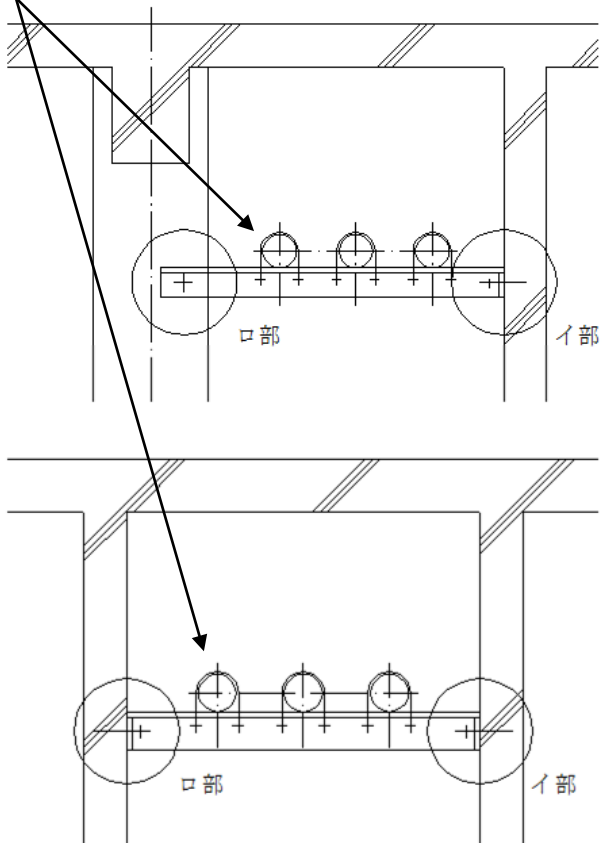
該当箇所		誤						正					
頁	行・図表												
130	附表 2.1-6 (No. 6 つづき) 配管重量 P 20 支持寸法 l 2000 h 500 の行 及び 1000 の行の、 部材仕様 a 材の列	[-100× <u>75</u> ×5×7.5						[-100× <u>50</u> ×5×7.5					
		20	1500	1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12	M16	20	1500	1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12	M16
				2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM16	2-M16			2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM16	2-M16
				2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	3-CM12	2-M16			2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	3-CM12	2-M16
		2000	500	[-100 × 75 × 5 × 7.5	2-CM10	M16	2000	500	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-CM10	M16		
				1000	[-100 × 75 × 5 × 7.5	2-CM10			M16	1000	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-CM10	M16
				1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-M16			M16	1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-M16	M16
				2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12			M16	2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12	M16
				2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	2-CM16			2-M16	2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	2-CM16	2-M16
				500	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-M10	M16			500	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-M10	M16

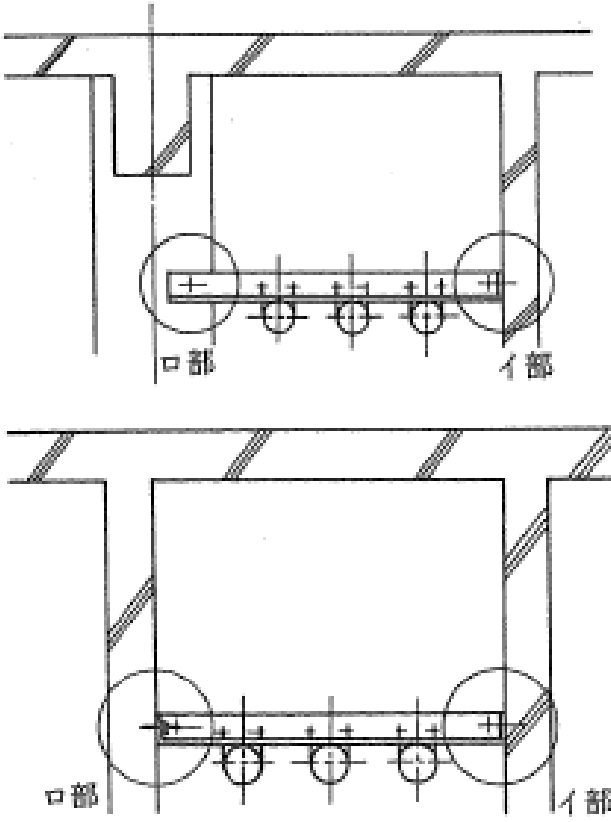
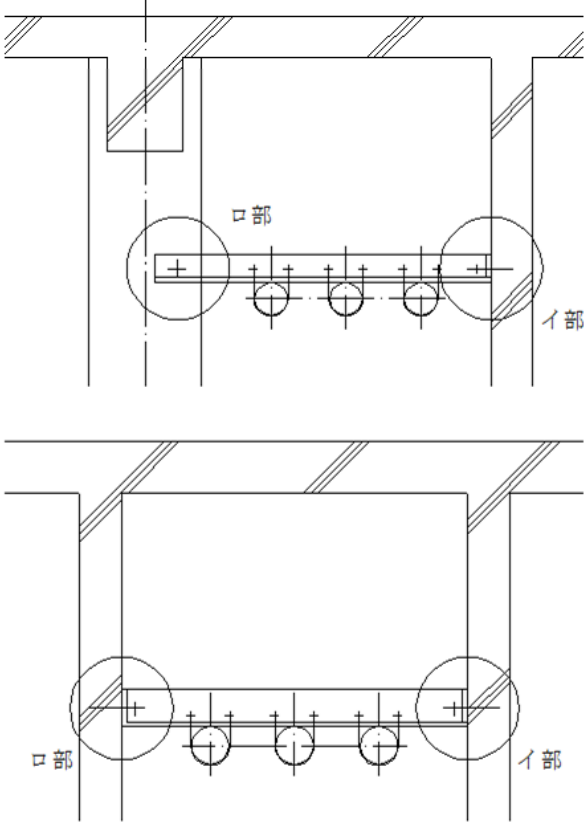
「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
(第 1 版 全刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。
最新の正誤表については、弊社センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

R2/3/10

該当箇所		誤	正																																						
頁	行など																																								
10	21 行目	を用いて、設計用水平震度 K_s を計算すると、・・・	を用いて、設計用標準震度 K_s を計算すると、・・・																																						
49	指針表 4.1-1	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ボルトの種類</th> <th colspan="2">長期許容応力度(kN/cm²)</th> <th colspan="2">短期許容応力度(kN/cm²)</th> </tr> <tr> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボルト(SS400)</td> <td>11.7</td> <td>6.78</td> <td>17.6</td> <td>10.1</td> </tr> <tr> <td>ステンレスボルト(A2-50)</td> <td>10.5</td> <td>6.08</td> <td>15.8</td> <td>9.12</td> </tr> </tbody> </table>	ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)		短期許容応力度(kN/cm ²)		引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)	ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1	ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.08	15.8	9.12	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ボルトの種類</th> <th colspan="2">長期許容応力度(kN/cm²)</th> <th colspan="2">短期許容応力度(kN/cm²)</th> </tr> <tr> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボルト(SS400)</td> <td>11.7</td> <td>6.78</td> <td>17.6</td> <td>10.1</td> </tr> <tr> <td>ステンレスボルト(A2-50)</td> <td>10.5</td> <td>6.06</td> <td>15.8</td> <td>9.09</td> </tr> </tbody> </table>	ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)		短期許容応力度(kN/cm ²)		引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)	ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1	ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.06	15.8	9.09
ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)			短期許容応力度(kN/cm ²)																																					
	引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)																																					
ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1																																					
ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.08	15.8	9.12																																					
ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)		短期許容応力度(kN/cm ²)																																						
	引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)																																					
ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1																																					
ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.06	15.8	9.09																																					
52	11 行目	・・・ボルトの「ねじ谷径断面/軸断面積=0.75」・・・	・・・ボルトの有効断面積「ねじ谷径断面/軸断面積=0.75」・・・																																						
125 136	左上の図	<p style="text-align: center;">タイプ 1</p>  <p style="text-align: center;">タイプ 2</p> 	<p>※「タイプ1」「タイプ2」の文字を削除</p>  																																						

該当箇所		誤	正
頁	行など		
149	付表 2.4-2 「全体架構図」の列 「タイプ1 配管を支持材上部に設置の場合」 の図	 <p>タイプ1 配管を支持材上部に設置の場合</p>	<p>※Uボルトを追加</p>  <p>配管を支持材上部に設置の場合</p> <p>※タイプ1を削除</p>

該当箇所		誤	正
頁	行など		
149	付表 2.4-2 「全体架構図」の列 「タイプ2 配管を支持材下部に設置の場合」 の図	 <p>タイプ2 配管を支持材下部に設置の場合</p>	 <p>配管を支持材下部に設置の場合</p> <p>※「タイプ2」を削除</p>
175	9行目	重心位置 $l_G=64\text{cm}$	(「重心位置 $l_G=64\text{cm}$ 」を削除)

「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
 (第 1 版 全刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。

最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

R2/6/24

該当箇所		誤					正						
頁	行など												
162	付表 2.6-2 配管重量 20 支持材寸法 500 の行	20	500	L-90 × 90 × 6	M12	E-70 × 40 × 5 × 7	M10	20	500	L-90 × 90 × 6	M12	E-75 × 40 × 5 × 7	M10
			1000	L-100 × 100 × 10	M12	[-100 × 50 × 5 × 7.5]	M10		1000	L-100 × 100 × 10	M12	[-100 × 50 × 5 × 7.5]	M10
			1500	L-130 × 130 × 9	M12	[-125 × 65 × 6 × 8]	M10		1500	L-130 × 130 × 9	M12	[-125 × 65 × 6 × 8]	M10
162	付表 2.6-2 配管重量 30 支持材寸法 500 の行	30	500	L-90 × 90 × 10	M16	[-75 × 40 × 40 × 5 × 7]	M10	30	500	L-90 × 90 × 10	M16	[-75 × 40 × 5 × 7]	M10
			1000	L-130 × 130 × 9	M16	[-125 × 65 × 6 × 8]	M10		1000	L-130 × 130 × 9	M16	[-125 × 65 × 6 × 8]	M10
			1500	L-130 × 130 × 15	M16	[-125 × 65 × 6 × 8]	M10		1500	L-130 × 130 × 15	M16	[-125 × 65 × 6 × 8]	M10
「× 40」を削除													
163	付表 2.6-3 配管重量 50 支持材寸法 2000 の行	50	1500	L-130 × 130 × 15	2-M16	H-100 × 100 × 6 × 8	M16	50	1500	L-130 × 130 × 15	2-M16	H-100 × 100 × 6 × 8	M16
			2000	L-150 × 150 × 7 × 10	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16		2000	H-150 × 150 × 7 × 10	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16
			2500	H-175 × 175 × 7.5 × 11	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16		2500	H-175 × 175 × 7.5 × 11	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16